

第1回2028年技能五輪国際大会招致に向けた 有識者検討会

日 時：2023年12月15日(金)

13時～15時

場 所：共用第9会議室(17F)

1 議題

- (1) 2028年技能五輪国際大会招致に向けた有識者検討会について
- (2) 技能五輪国際大会の概要について
- (3) 2028年技能五輪国際大会招致に向けた競技力強化・
人材育成の方向性
- (4) 2028年技能五輪国際大会招致に向けた周知・広報について
～以下、非公開で実施～
- (5) 国際大会招致(基本計画)(案)について

○配付資料

- 資料1 2028年技能五輪国際大会招致に向けた有識者検討会開催要綱(案)
- 資料2 今後の進め方(案)
- 資料3 技能五輪国際大会について
- 資料4 2028年技能五輪国際大会の招致について
- 資料5 2028年技能五輪国際大会招致に向けた選手強化の方向性
- 資料6 2028年技能五輪国際大会招致に向けた周知・広報について
- 資料7 2023年技能五輪国際大会基本計画(概要案)※非公開
- 資料8 2028年技能五輪国際大会の基本計画に対する方向性※非公開
- 資料9 2028年招致基本計画概要(抄)(案)※非公開
- 資料10 2023年基本計画における取組内容との比較について※非公開

- 参考資料1 強化指針の策定について(選手強化委員長あて)
- 参考資料2 技能五輪国際大会における大会テーマについて
- 参考資料3 提案書※非公開

2028 年技能五輪国際大会招致に向けた有識者検討会開催要綱 (案)

1 趣旨

2028 年技能五輪国際大会の日本・愛知県への招致に向けて、実施計画の検討等を行うため、有識者により構成される 2028 年技能五輪国際大会招致に向けた有識者検討会（以下「検討会」という。）を開催する。

2 検討事項

検討会においては、前記の趣旨を踏まえ、2028 年技能五輪国際大会の招致に関する事、国内の招致機運・技能尊重機運の醸成に関する事等について幅広く意見交換を行うものとする。

3 構成員

別紙のとおり

4 検討会の運営

- (1) 検討会は、厚生労働省人材開発統括官が有識者等の参集を求め、開催する。
- (2) 座長は、参集者の互選により選出する。
- (3) 検討会の庶務は、愛知県の協力を得て人材開発統括官付能力評価担当参事官室において行う。

5 会議及び議事録の公開

会議、議事録及び資料を公開とする。

ただし、特段の事情がある場合には、座長の判断により、会議、議事録及び資料を非公開とすることができる。

2028年技能五輪国際大会招致に向けた有識者検討会構成員名簿 (案)

構成員 (20名)

【事業主・業界団体代表】(6名)

岩原 明彦 愛知県経営者協会専務理事兼事務局長
内田 吉彦 愛知県商工会議所連合会専務理事
大下 英和 日本商工会議所産業政策第二部長
新田 秀司 (一社)日本経済団体連合会労働政策本部長
増田 義則 (一社)中部経済連合会専務理事
山口 高広 全国中小企業団体中央会副会長／愛知県中小企業団体中央会会長

【学識経験者】(2名)

垣本 映 職業能力開発総合大学校教授
三原 齊 ものづくり大学教授

【労働者代表】(2名)

可知 洋二 日本労働組合総連合会愛知県連合会会長
富高 裕子 日本労働組合総連合会総合政策推進局長

【競技関係者】(6名)

阿部 晴希 (株)日立インダストリアルプロダクツ (製造系 CNC 旋盤)
上岡 敦哉 トヨタ自動車(株) (情報通信系 IT ネットワークシステム管理)
小林 正和 全国建設労働組合総連合技術対策部長
佐藤 克司 (一社)全国技能士会連合会常務理事
土田 久美子 (特非)インターネットスキル認定普及協会
幡野 徳絵 (一社)日本エステティック協会

【学校関係者】(2名)

市原 康雄 全国専修学校各種学校総連合会理事
福田 健昌 (公社)全国工業高等学校長協会理事長

【マスコミ関係者】(2名)

大津 和夫 (株)読売新聞東京本社編集局管理部専門委員
林 英雄 (株)日刊工業新聞社執行役員・総合事業本部長

(五十音順、敬称略)

今後の進め方(案)

○ 開催予定・議題

第1回：令和5年12月

議題：今後の進め方について
国際大会招致(基本計画)について①

第2回：令和6年2月

議題：国際大会招致(基本計画)について②
WSI検証訪問について

第3回：令和6年4～5月

議題：国際大会招致(基本計画)について③(とりまとめ)
開催決定後の対応について

- 原則22歳以下の青年技能者を対象に、技能競技を通じ、参加国・地域の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、国際交流と親善を目的に隔年で開催。幅広い職種を対象とする、唯一の世界レベルの技能競技大会。日本選手団は、1962年から参加。これまで日本では、過去3回国際大会を開催（1970年東京、1985年大阪、2007年静岡）。
- 国際大会はワールドスキルズインターナショナル（本部オランダ・WSI）により運営されており、86か国・地域が加盟（2023年11月時点）。日本は中央職業能力開発協会（JAVADA）が加盟。
- 直近では、2022年10月に中国・上海で開催予定だった第46回技能五輪国際大会は、新型コロナの影響により、中国・上海での開催を中止し、競技職種毎に日本を含む15か国での分散開催。日本においては、3職種（「情報ネットワーク施工」、「光電子技術」、「再生可能エネルギー」）の競技を10月15日～18日に京都で開催。
- 今後の国際大会は、2024年9月にフランス・リヨン（新型コロナの影響により、当初の予定から1年延期）、2026年9月に中国・上海で開催予定。

【これまでの開催国】

開催年	2007年11月	2009年9月	2011年10月	2013年7月	2015年8月	2017年10月	2019年8月	2022年
開催国	第39回日本（静岡）	第40回カナダ（カルガリー）	第41回イギリス（ロンドン）	第42回ドイツ（ライプツヒ）	第43回ブラジル（サンパウロ）	第44回アラブ首長国連邦（アブダビ）	第45回ロシア（カザン）	第46回15か国分散開催
参加国・地域	46	46	52	53	59	59	62	56
競技職種数	47	45	46	46	50	51	56	61
参加選手数（）は日本選手	812（51）	850（45）	944（44）	986（45）	1,189（45）	1,251（45）	1,348（48）	989（59）
日本の成績（順位は金メダル数）	国別順位：1位 金16、銀5、銅3	国別順位：3位 金6、銀3、銅5	国別順位：2位 金11、銀4、銅4	国別順位：4位 金5、銀4、銅3	国別順位：3位 金5、銀3、銅5	国別順位：9位 金3、銀2、銅4	国別順位：7位 金2、銀3、銅6	国別順位：3位 金8、銀5、銅5

【第47回大会の競技職種（59職種）】

赤字は第46回大会追加の7職種、青字は第47回大会追加1職種
網掛けは日本選手未出場10職種

※メダルの表記は第46回大会実績

建設・建築系（13）		アート・ファッション系（6）		情報通信系（7）		製造エンジニアリング系（19）			サービス系（8）		輸送系（6）
タイル張り	配管 (敢)	貴金属装身具 (敢)	情報ネットワーク施工 (金)	産業機械 (金)	製造チームチャレンジ (銀)	メカトロクス (金)	美容/理容	自動車板金 (金)			
電工 (敢)	れんが積み	フラワー装飾	業務用ITソフトウェアソリューションズ (金)	機械製図CAD (敢)	CNC旋盤 (銀)	CNCフライス盤 (銅)	ビューティーセラピー (銅)	航空機整備			
左官 (敢)	広告美術	洋裁	ウェブデザイン (敢)	溶接 (金)	電子機器組立て (敢)	工場電気設備 (敢)	洋菓子製造 (敢)	自動車工 (敢)			
家具	建具	グラフィックデザイン	ITネットワークシステム管理 (金)	自律型移動式ロボット (銅)	構造物鉄工 (敢)	インダストリー4.0	西洋料理 (敢)	車体塗装			
建築大工	造園 (銀)	ビジュアル販売促進	クラウドコンピューティング (敢)	化学実験技術	水技術 (銅)	3Dプリント	レストランサービス	重機メンテナンス			
冷凍空調技術 (敢)	建設コンクリート施工	3Dデジタルゲームアート	サイバーセキュリティ	工業デザイン技術	光電子技術 (銅)	再生可能エネルギー (金)	看護/介護	物流貨物輸送			
デジタルコンストラクション			モバイルアプリケーション開発	ロボットシステムインテグレーション (敢)			パン製造 (敢)				
							ホテルレセプション				

技能五輪国際大会 これまでの開催実績・メダル獲得数

回数	開催年	開催国・地域	参加国地域数	総参加選手数	日本選手成績			金メダル獲得上位3か国・地域名
					金	銀	銅	
第1回	1950年	スペイン・マドリード	2	24				
第2回	1952年	スペイン・マドリード	2	16				
第3回	1953年	スペイン・マドリード	6	65				
第4回	1955年	スペイン・マドリード	6	82				
第5回	1956年	スペイン・マドリード	8	88				
第6回	1957年	スペイン・マドリード	8	128				
第7回	1958年	ベルギー・ブリュッセル	10	144				
第8回	1959年	イタリア・モデナ	9	150				
第9回	1960年	スペイン・バルセロナ	7	173				
第10回	1961年	西ドイツ・デュイスブルグ	11	182				
第11回	1962年	スペイン・ヒホン	10	199	5	1	0	1位スペイン、2位日本
第12回	1963年	アイルランド・ダブリン	12	227	10	0	2	1位日本 2位アイルランド 3位西ドイツ
第13回	1964年	ポルトガル・リスボン	12	199	12	4	0	1位日本 2位イギリス 3位ポルトガル、スペイン
第14回	1965年	イギリス・グラスゴー	11	200	6	5	2	1位イギリス 2位日本 3位スペイン
第15回	1966年	オランダ・ユトレヒト	11	212	9	3	2	1位日本 2位オランダ 3位イギリス、イタリア
第16回	1967年	スペイン・マドリード	11	218	5	7	2	1位スペイン 2位日本 3位西ドイツ
第17回	1968年	スイス・ベルン	14	246	6	2	5	1位スイス 2位日本 3位韓国
第18回	1969年	ベルギー・ブリュッセル	15	260	9	2	4	1位日本 2位スイス 3位西ドイツ
第19回	1970年	日本・東京	15	274	17	4	3	1位日本 2位西ドイツ、韓国、スイス
第20回	1971年	スペイン・ヒホン	15	273	10	3	5	1位日本 2位スペイン、スイス
第21回	1973年	西ドイツ・ミュンヘン	15	281	5	5	8	1位西ドイツ 2位韓国 3位日本、スイス
第22回	1975年	スペイン・マドリード	17	291	4	7	5	1位スイス 2位韓国 3位スペイン 4位日本
第23回	1977年	オランダ・ユトレヒト	16	267	7	4	3	1位韓国 2位西ドイツ 3位日本
第24回	1978年	韓国・釜山	14	239	1	5	6	1位韓国 2位スイス 3位オーストリア他3か国 7位日本
第25回	1979年	アイルランド・コーク	14	276	7	8	1	1位韓国 2位日本 3位スイス

回数	開催年	開催国・地域	参加国地域数	総参加選手数	日本選手成績			金メダル獲得上位3か国・地域名
					金	銀	銅	
第26回	1981年	アメリカ合衆国・アトランタ	14	266	5	8	4	1位韓国 2位日本 3位スイス、西ドイツ
第27回	1983年	オーストリア・リンツ	18	309	4	5	4	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 4位日本
第28回	1985年	日本・大阪	18	307	11	8	4	1位韓国 2位日本 3位チャイニーズタイペイ、スイス
第29回	1988年	オーストラリア・シドニー	19	354	6	0	3	1位韓国 2位日本 3位チャイニーズタイペイ、他2か国
第30回	1989年	イギリス・バーミンガム	21	382	3	6	1	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 5位日本
第31回	1991年	オランダ・アムステルダム	21	411	4	2	2	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位オーストリア 4位日本
第32回	1993年	チャイニーズタイペイ・台北	25	434	2	6	5	1位チャイニーズタイペイ 2位韓国 3位ドイツ 4位日本
第33回	1995年	フランス・リヨン	28	474	4	3	1	1位韓国 2位チャイニーズタイペイ 3位日本、ドイツ、スイス
第34回	1997年	スイス・ザンクトガレン	30	549	2	0	4	1位韓国、2位チャイニーズタイペイ、スイス 8位日本
第35回	1999年	カナダ・モントリオール	33	625	6	3	2	1位チャイニーズタイペイ、韓国 3位日本
第36回	2001年	韓国・ソウル	35	616	4	2	4	1位韓国 2位ドイツ 3位日本、オーストリア
第37回	2003年	スイス・ザンクトガレン	37	585	6	2	4	1位韓国 2位スイス 3位日本
第38回	2005年	フィンランド・ヘルシンキ	38	696	5	1	2	1位日本、スイス、南チロル・イタリア 4位ドイツ、フィンランド 6位韓国他3か国
第39回	2007年	日本・静岡	46	812	16	5	3	1位日本、2位韓国、3位フランス
第40回	2009年	カナダ・カルガリー	46	850	6	3	5	1位韓国 2位スイス 3位日本
第41回	2011年	イギリス・ロンドン	52	944	11	4	4	1位韓国 2位日本 3位スイス
第42回	2013年	ドイツ・ライプツィヒ	53	986	5	4	3	1位韓国、2位スイス 3位チャイニーズタイペイ、4位日本
第43回	2015年	ブラジル・サンパウロ	59	1189	5	3	5	1位韓国、2位ブラジル、3位日本他4か国
第44回	2017年	アラブ首長国連邦・アブダビ	59	1251	3	2	4	1位中国、2位スイス、3位韓国 9位日本、フィンランド
第45回	2019年	ロシア連邦・カザン	62	1348	2	3	6	位中国、2位ロシア、3位韓国、7位日本他5か国
第46回	2022年	日本はじめ15か国・地域	56	989	8	5	5	1位中国、2位韓国、3位日本

ワールドスキルズインターナショナル（WSI）と開催地決定方法について

技能五輪国際大会運営組織について

- 名称：ワールドスキルズインターナショナル（略称：WSI）
- 本部：オランダ・アムステルダム
- 加盟国/地域：世界86か国/地域が加盟（2023年11月現在）。日本は中央職業能力開発協会が加盟。
- 概要：職業訓練の促進、技能に関する制度の情報交換の促進及び青年労働者の国際的相互理解の促進を目的として結成された非政府組織。

開催地決定の選挙方法

- 票数：加盟国/地域は一票を有する。ただし、準加盟国、年会費未納国及び直近2回の総会を全て欠席した国は投票権（選挙権）無し。
- 立候補国等が2か国以上の場合：絶対多数（投票数50%プラス1）が必要。絶対多数に満たない場合は、再投票。候補国等が3か国以上で再投票となった場合、獲得票数が一番少ない国は除外され、再投票。

WSI加盟国/地域一覧（2023年11月時点）

全加盟国・地域数：86か国（正加盟国・地域：**73か国**（国名赤字は資格停止中）
（準加盟国・地域：**13か国**（国・地域名青字））

- アジア（21か国）** バングラデシュ人民共和国、**ブルネイ・ダルサラーム国**、中華人民共和国、香港、インドネシア共和国、インド、日本、大韓民国、カザフスタン共和国、**スリランカ民主社会主義共和国**、モンゴル国、マカオ、マレーシア、フィリピン共和国、パキスタン・イスラム共和国、シンガポール共和国、タイ王国、台湾、ベトナム社会主義共和国、ウズベキスタン共和国、**キルギス共和国**
- 大洋州（2か国）** オーストラリア連邦、ニュージーランド
- 北米（2か国）** カナダ、アメリカ合衆国
- 中南米（13か国）** **アルゼンチン共和国**、バルバドス、ブラジル連邦共和国、チリ共和国、コロンビア共和国、コスタリカ共和国、**ドミニカ共和国**、**エクアドル共和国**、ジャマイカ、メキシコ合衆国、パラグアイ共和国、**トリニダード・トバゴ共和国**、ベネズエラ・ボリバル共和国
- 欧州（29か国）** アルメニア共和国、オーストリア共和国、ベルギー王国、**ベラルーシ共和国**、スイス連邦、ドイツ連邦共和国、デンマーク王国、エストニア共和国、スペイン王国、フィンランド共和国、フランス共和国、**ジョージア**、クロアチア共和国、ハンガリー、アイルランド、アイスランド共和国、イタリア共和国、ポーランド共和国、リヒテンシュタイン公国、ルクセンブルク大公国、ラトビア共和国、オランダ王国、ノルウェー王国、ポルトガル共和国、ルーマニア、**ロシア連邦**、スウェーデン王国、**ウクライナ**、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国
- 中東（10か国）** アゼルバイジャン共和国、アラブ首長国連邦、バーレーン王国、**イスラエル国**、イラン・イスラム共和国、クウェート国、オマーン国、**パレスチナ**、サウジアラビア王国、トルコ共和国
- アフリカ（9か国）** エジプト・アラブ共和国、モロッコ王国、ナミビア共和国、チュニジア共和国、南アフリカ共和国、ザンビア共和国、**ガーナ共和国**、**ウガンダ共和国**、ケニア共和国

2028年技能五輪国際大会の招致について

資料4

今後のスケジュール

年度	2023 (5年度)	2024 (6年度)	2025 (7年度)	2026 (8年度)	2027 (9年度)	2028 (10年度)
開催国		第47回 フランス (リヨン)		第48回 中国 (上海)		第49回 未定
イベント	9月28日 総会（立候補国募集開始） 11月10日 招致表明 12月8日 立候補国募集締切 12月15日 検討会の開催 3月上旬 WSIの検証訪問	6月 提案書の提出締切 9月 開催地決定				開催
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">検討会の開催</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・開催にむけた準備 ・運営組織（組織委員会（仮称））の設立 </div>			

2028年技能五輪国際大会 開催計画（案）

開催概要

項目	概要	
名称	第49回技能五輪国際大会（日本・愛知大会） ／World Skills Aichi 2028（仮称）	
日時・場所 （想定）	競技	愛知県国際展示場 2028年9月～11月（4日間）
	開会式	愛知県新体育館 2028年9月～11月（1日間）
	閉会式 さよならパーティー	愛知県新体育館 2028年9月～11月（同日 1日間）
競技職種	59職種（想定） 参考：2024年フランス・リヨン大会（59職種）	
参加国・地域	65か国・地域以上（想定）	
参加者	選手、技術代表、エキスパート等	
来場者（想定）	30万人以上（一般見学者含む）	
主催	公益財団法人第49回技能五輪国際大会日本組織委員会（仮称）	
共催	WorldSkills International	

愛知県国際展示場 （Aichi Sky Expo）



愛知県新体育館 （愛知国際アリーナ）



©2022 Aichi International Arena
画像はイメージです。デザインなどは変更になる場合があります。

開催日程案

競技準備期間				競技期間				競技終了後	
選手等到着	エクスカージョン	選手下見	開会式	競技1日目	競技2日目	競技3日目	競技4日目	閉会式 さよならパーティー	選手等出発

- 我が国は選手強化委員会（委員長；市川 修 職業能力総合大学教授）の下での議論を踏まえ、「競技力強化・人材育成」指針（別添）を作成。同指針に基づき、各職種毎に職種別分科会を設け、中長期的な取組を実施
- 第49回技能五輪国際大会（2028年）に向けて、国際大会や各種技能競技大会等への認知度向上及び協力の裾野拡大に向けた取組の強化を行う

具体的には、

- 選手強化委員会を中心に、官民を挙げて継続的に競技力強化・技能五輪を活用した人材育成の取組を支援
 - ・ 国内外での海外選手との合同訓練の機会や技能五輪アジア大会をはじめとした国際技能大会への対応強化
 - ・ 「ものづくり」に加え、「デジタル化・SDG s 等」新たな職種への対応の強化
- 国際大会の招致を見据えた技能五輪全国大会の開催のあり方の見直しを実施
 - ・ 国際大会との競技職種の整合化の推進
 - ・ 国際大会実施職種や社会的にニーズの高い職種の導入
 - ・ 全国大会における海外選手の受入の検討等 を行う
- 過去の大会参加選手・その後の活動のフォローなど大会参加の意義の発信、子どもや若者への発信強化を含めた取組の強化を行う

第47回技能五輪国際大会に出場する選手の競技力強化・人材育成に関する指針（2023年4月改定）

趣旨

第47回技能五輪国際大会（※）やその後の国際大会に向けて、以下の2点を目的として指針を改定。

- 技能五輪国際大会における日本人選手団の活躍が我が国における技能尊重機運の醸成に極めて大きな影響があることに鑑み、その競技力向上を図る。
- 技能五輪国際大会に向けた活動を通じた我が国の産業界の発展、人材育成に向けた取組の強化を図る。

※ 第47回技能五輪国際大会は令和6年9月にフランス・リヨンで開催。

対応の方向性

<p>1 組織・計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「選手強化委員会」、「職種別分科会」等を設置・運営し、選手の所属企業・学校、関係業界団体、当該職種の全国大会競技主査等によるオールジャパンの強化・協力体制を構築 ・選手強化委員会は、具体的なメダル獲得数等の目標を設定し、各職種への支援策を決定 ・各職種別分科会は、中長期的な強化訓練計画及び国際大会への参加を通じた人材育成に資する取組を検討・実施 	<p>4 スタッフ</p>	<ul style="list-style-type: none"> (1)エキスパート <ul style="list-style-type: none"> ・指導力、コミュニケーション力、情報収集力、英語力等に優れたエキスパートの選任、継続的な就任 (2)通訳 <ul style="list-style-type: none"> ・国際大会の運営を十分理解し、適切な通訳・翻訳ができ、選手・エキスパートとのコミュニケーション能力を持つ者を選定 (3)指導員 <ul style="list-style-type: none"> ・国際大会に対応した十分な技能レベル、指導力、情報分析力を持つ者の選定
<p>2 選抜方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会の競技主査等と連携し、競技課題等運営方法を国際大会に整合化させる取組を推進 ・代表選抜の早期化や最終選抜の仕組みの導入など、職種ごとに選抜方法の最適化を推進 	<p>5 認知度向上と協力要請</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会や各種技能競技大会等の認知度向上のための広報の充実 ・国から企業等に対し、職種別分科会への参加、選考会への参加勧奨、合同訓練等の実施、機材の提供等に関する協力要請 ・国際大会や各種技能競技大会等への国民各層の参加促進 ・国際大会で優秀な成績を収めた選手、エキスパート等の表彰
<p>3 強化訓練</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会に対応した強化訓練を実施するため、人材や機材を確保 ・選手、エキスパート、指導員、通訳の海外訓練、国内合同訓練、職能大が実施する研修の受講等の推進 ・海外訓練等を通じて、環境変化・アクシデントへの対応力を強化 		

スケジュール

年度	2023 (令和5年度)	2024 (令和6年度)	2025 (令和7年度)	2026 (令和8年度)	2027 (令和9年度)	2028 (令和10年度)
国際大会	技能五輪 アジア大会 (UAE・アブダビ) 【11月】	第47回 技能五輪 国際大会 (フランス・リヨン) 【9月】	技能五輪 アジア大会 (台湾) 【11月】	第48回 技能五輪 国際大会 (中国・上海) 【9月】	技能五輪 アジア大会 (未定)	第49回 技能五輪 国際大会 (日本・愛知?)
国内大会	技能五輪 全国大会 (愛知) 【11月】	技能五輪 全国大会 (愛知) 【11月】	技能五輪 全国大会 (愛知) 【10月】	技能五輪 全国大会 【未定】	技能五輪 全国大会 【未定】	技能五輪 全国大会 【未定】

<2023年度(2023.11月～2024.3月)>

	時期	取組	取組主体	対象	内容
国内	2023年 11月	PRブース出展 (技能五輪全国大会)	厚生労働省	若年技能者 競技関係企業・団体 一般	ポスターやバナーを活用し、若年者をはじめとした関係者や来場者に、国際大会の招致について広く周知する。
	2024年 1月	厚労省HPの拡充	厚生労働省	一般	一般に向けて国際大会の招致についてPRを行うため、既存のWEBサイトを拡充しポスターやリーフレットを掲載する。(関係者が活用できるようにダウンロード可能とする)。
	2024年 ～2月	学校での出前授業等	愛知県	児童・生徒	愛知県内の小中学校や特別支援学校の児童・生徒に対し、大会やモノづくりへの興味・関心の喚起を図るため、技能五輪のメダリスト等による講話や実演の他、出場企業の見学会を実施する。
	2024年 2月	PRブース出展 (技能グランプリ)	厚生労働省	競技参加者 競技関係企業・団体 一般	ポスターやバナーを活用し、関係者や来場者に、国際大会の招致について広く周知する。
	2024年 2月	街頭イベント	愛知県	一般(ファミリー層)	国際大会招致への理解と共感を得るため、愛知県内の商業施設でファミリー向けのイベントを実施し、国際大会の概要や選手の活躍等を広く周知する。

	時期	取組	取組主体	対象	内容
国外	2023年 11月	支持・協力要請 (WSA総会・アブダビ)	厚生労働省 JAVADA	WSI加盟国 (中東・アジア圏)	WSA総会に参加する各国の政府関係者や公式代表等に対し、支持・協力を要請する。
	2024年 1月	厚労省HPの拡充	厚生労働省	一般	国外に向けて国際大会の招致についてPRを行うため、既存のWEBサイトを拡充し外国語のポスターやリーフレットを掲載する。(関係者が活用できるようにダウンロード可能とする)。
	2024年 3月	PRリーフレットの制作	愛知県	WSI加盟国	WSI加盟国に対する支持・協力要請で活用する日本・愛知の魅力を伝えるリーフレットを制作するなお、日本語だけでなく英語等主要5か国程度の多言語で作成する。

2028年技能五輪国際大会招致に向けた周知・広報について

<2024年度予定(2024.4月～9月)>

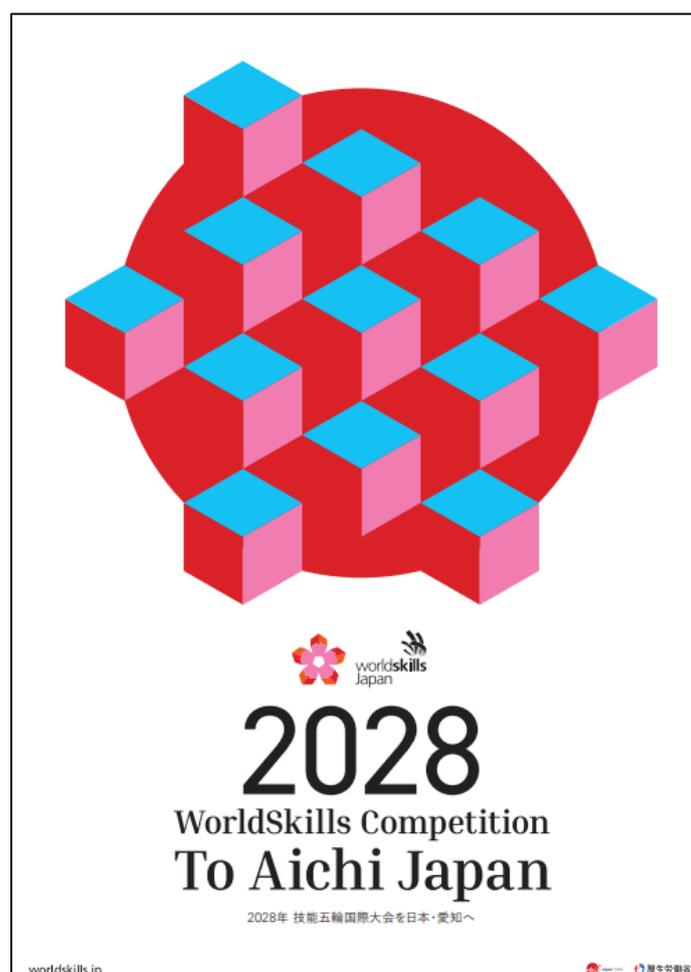
	時期	取組	取組主体	対象	内容
国内	2024年 5月	PR専用WEBサイト運用	厚生労働省	一般	大会招致専用WEBサイトを開設し、国内に向けて、技能五輪国際大会招致について広く周知する。
		PRポスター制作 PRリーフレット制作 PR動画制作 PRグッズの制作	厚生労働省	一般	国内に向けて国際大会招致を周知するためのツールを作成し、支持・協力いただくための広報活動に活用する。なお、ポスター・リーフレットは日本語だけでなく英語等主要5か国程度の多言語で作成し、動画については日本語と英語の2パターン作成する。
	2024年 6～7月	PRブース出展 (愛知県内各種イベント)	愛知県	生徒(中高生) 一般	愛知県で開催されるモノづくりに関連するイベントや中高生が多数参加するイベントにおいて、来場する中高生等に対し、国際大会の招致について広く周知する。
	2024年 6月～	学校での出前授業等	愛知県	児童・生徒	愛知県内の小中学校や特別支援学校の児童・生徒に対し、大会やモノづくりへの興味・関心の喚起を図るため、技能五輪のメダリスト等による講話や実演の他、出場企業の見学会を実施する。
	2024年 7～8月	PRブース出展 (若年者ものづくり競技大会) 7/31、8/1	厚生労働省	若年技能者 競技関係企業・団体 一般	各種広報物を活用し、来場するものづくりに関心のある若年技能者に対し、国際大会の招致について広く周知する。
国外	2024年 5月	PR専用WEBサイト運用	厚生労働省	一般	大会招致PR専用WEBサイトにおいて、英語版のものも用意し、国外に向けて、技能五輪国際大会招致について広く周知する。
		PRポスター制作 PRリーフレット制作 PR動画制作 PRグッズの制作	厚生労働省	一般	国外に向けて国際大会招致を周知するためのツールを作成し、支持・協力いただくための広報活動に活用する。なお、ポスター・リーフレットは日本語だけでなく英語等主要5か国程度の多言語で作成し、動画については日本語と英語の2パターン作成する。
	2024年 5月～	WSI加盟国へ招致活動	厚生労働省 愛知県 JAVADA	WSI加盟国	他国の動向を踏まえて今後検討予定。
	2024年 9月	PRブース出展 (技能五輪国際大会・リヨン) 9/10～15	厚生労働省	WSI加盟国	コンパクトでサステナブルな大会であること、人々の印象に残るインパクトのある大会であることを、WSI加盟国に印象付けるための各種広報を行う。

広報物デザイン（招致 PR のために作成）

<ロゴ>



<ポスター>



※ ポスターは、ジャパングラフィック工業会の協力を得て、作成。
都道府県庁、都道府県労働局、職業能力開発協会、職業大、技能五輪全国大会後援団体等に11月中に発送。

技能五輪国際大会選手強化委員会
委員長 殿

厚生労働省人材開発統括官

第 47 回技能五輪国際大会に出場する選手の競技力強化・
人材育成に関する指針の策定について

平素より人材開発行政にご理解と多大なご協力を賜っており、厚く御礼申し上げます。

さて、技能五輪国際大会（以下「国際大会」という。）については、国際大会における我が国選手の活躍が、我が国における技能尊重機運の醸成に極めて大きな影響があることに鑑み、中長期的視野も取り入れつつ、技能五輪国際大会選手強化委員会（以下「強化委員会」という。）の開催や、強化委員会の下に開催される職種別分科会の開催等を通じて、選手の強化に取り組むこととしているところです。

こうした中、先般開催された第 46 回国際大会の結果に基づき行われた強化委員会の議論を踏まえ、今般、別紙のとおり指針を策定しましたので、了知の上、強化委員会関係者及び職種別分科会関係者と広く共有するとともに、令和 6 年 9 月にフランス・リヨンで開催される第 47 回国際大会やその後の国際大会に向けた選手の競技力強化等に取り組んでいただきますようお願いいたします。

第 47 回技能五輪国際大会に出場する選手の競技力強化・人材育成に関する指針

第 1 はじめに

新型コロナウイルスの影響を受けて、第 46 回技能五輪国際大会（上海大会）が中止され、その代替措置として、第 46 回技能五輪国際大会（特別開催）が競技職種毎に日本を含む世界 15 カ国で令和 4 年 9 月から 11 月にかけて開催された。日本選手団は、これまで取り組んできた選手強化委員会等における取組の成果、開催期間が 1 年間延期されたことによる訓練期間の増加の影響、ロシア・ブラジルの不参加等の影響等の要因により、金メダル獲得数が、前回大会 2 職種から 8 職種に増加するなど、好成績を収めた。

本指針は、技能五輪国際大会（以下「国際大会」という。）における日本人選手団の活躍が我が国における技能尊重機運の醸成に極めて大きな影響があることに鑑み、その競技力向上を図るために策定するものである。あわせて、本指針に基づき、関係する経済団体、教育機関等をはじめとする国民各層との連携を図りつつ、国際大会に向けた活動を通じた我が国の産業界の発展、人材育成に向けた取組の強化を図るものとする。

第 2 対応の方向性

1 組織体制の整備及び中長期的な強化訓練計画の策定・実施

国際大会に参加する選手の強化訓練に当たっては、選手の所属企業・学校はもとより、前回国際大会参加選手の所属企業・学校や関係業界団体、当該職種の全国大会競技主査（以下「主査」という。）等が、各職種においてオールジャパンの強化・協力体制を構築することが重要である。

については、次回以降の大会も視野に入れた中長期的な各職種の強化に向けた取組を促進するため、以下の組織体制を整備し、中長期的な訓練計画を策定・実施する。

(1) 組織体制の整備

ア 選手強化委員会

選手強化に関する専門的な事項を検討し、下記イの職種別分科会の活動を効果的なものとするため、常設の「技能五輪国際大会選手強化委員会（以下「強化委員会」という。）」を設置する。

イ 職種別分科会

強化委員会の下部組織として、各職種において、国際大会出場選手等の強化に、企業・学校等の枠を超え、オールジャパンの組織体制で取り組むため、「職種別分科会」を設置する。

ウ 検討チーム

職種間の協力や連携を円滑なものとするため、強化委員会の下に、職種横断的な強化策等を検討するため、目的や職種群の特性に応じた「検討チーム」を設置する。

(2) 中長期的な強化訓練計画の策定・実施

強化委員会は、国際大会のメダル獲得数等の具体的な目標を設定し、各職種の目

標水準に応じた支援策を決定するとともに、各職種別分科会に対して訓練計画の策定や実施状況の報告を求め、それらの確認・評価を実施する。

職種別分科会は、各職種の目標に沿った強化訓練計画を策定・実施し、併せて次世代の選手の育成等、選手強化に必要な中長期的な計画を策定・実施する。さらに、国際大会の参加等を通じた職種における人材育成に資する取組についても検討の上、計画に盛り込み、実施する。

2 選抜方法の改善

国際大会で「より勝てる」選手を選抜するため、以下の方針により、選手を選抜する全国大会等の競技課題の国際大会との整合化や、選抜時期の適正化に取り組む。

(1) 競技課題等の整合化

現在、競技課題の内容、競技日数等の点で国際大会と全国大会等にはなお乖離があるため、職種別分科会の積極的な関与のもと競技課題を含む全国大会等の運営方法を国際大会に整合化させる取組を一層促進し、国際大会にも適応できる選手の育成・選抜を図る。

(2) 選抜時期等の適正化

現在、国際大会に出場する選手の選抜・育成は、国際大会前年の全国大会等で優勝した者等を1人（職種によっては1チーム（2人～3人）。以下同じ。）選抜し、国際大会に出場する選手として育成している例が多いが、とりわけ競技課題の内容等で国際大会と全国大会の乖離が大きい職種については、国際大会に出場する選手の訓練期間を十分確保するとともに、より国際大会に適した選手を選抜するため、代表選抜の早期化や最終選抜の仕組みの導入など職種ごとに最適化を図るための取組を検討の上、必要に応じ、計画に盛り込み、実施する。

3 強化訓練の計画的実施

国際大会に出場する選手の強化訓練は、上記1に掲げる訓練計画に基づき、効果的・効率的に実施する。

国においては、競技会で用いる機器等が既に整備されている公共職業訓練施設の調査、当該施設における選手強化訓練に向けた連絡調整を行うことで、その施設が選手強化のための訓練等に有効活用されるよう促進することに努めるものとする。

(1) 国際大会の競技水準への適応

国際大会に対応した強化訓練を実施するために、評価基準、競技課題及び選手の強化策に精通した人材の確保等を行うとともに、できる限り国際大会において実際に使用される使用機材・練習材料等を手配し、技能水準の効果的な向上を図る。

(2) 海外訓練等の促進

国際大会の競技環境に習熟するとともに、海外の競技関係者との関係を強化する

ため、選手、エキスパート、指導員及び通訳等の関係者による海外で行われる技能競技大会への参加や国内・海外における合同訓練の実施を促進する。また、全国大会の上位入賞者等、今後の国際大会への参加が見込まれる有力な選手の海外派遣等を推進する。

(3) 研修の充実

選手、エキスパート、指導員及び通訳等に、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構職業能力開発総合大学校が実施する国際大会の競技関係者に向けた研修を活用させる等により、研修の充実を図る。また、選手及びエキスパートの語学力向上を図るため、語学研修の受講を支援する。

(4) 環境変化・アクシデント等への対応等

国際大会では、日本国内の技能競技大会とは異なる状況が生じ得ることを踏まえ、海外における強化訓練や技能競技大会への参加等を通じ、臨機応変な対応力を涵養する。また、併せて精神面を強化する訓練を実施する。

4 選手を支えるスタッフ力の向上

選手が現地で十分に実力を発揮できる環境を整備するため、選手を支えるスタッフについて、以下に示すとおり、能力及び意欲に重点を置いた人選を促進する。

(1) エキスパート

国際大会の職種運営に関与するエキスパートについては、複数回の国際大会に継続して就任することができる者を次の要件を満たす複数の候補者の中から職種別分科会が選定し、選手強化委員会の審査の結果を踏まえ、ワールドスキルズインターナショナルに日本を代表して加盟する中央職業能力開発協会が決定するものとする。なお、エキスパートと下記(3)の指導員にはできるだけ別の者が就任することが望ましい。また、両者の十分な連携に留意が必要である。

ア 能力について

- ・選手の能力向上を体現できる高い技能レベル及び指導力
- ・他国のエキスパートと意思疎通を図ることのできるコミュニケーション力
- ・競技課題の傾向等に関する情報収集力
- ・国際大会期間中の指導及び審査における適応力・英語力
- ・積極的、論理的に意見交換ができること

イ 意欲について

- ・国際大会における職種管理チーム(以下「SMT」という。)に積極的に関与し、さらに、SMTメンバーに就任する意欲を有すること
- ・中長期的にエキスパートを務める意欲を有すること

(2) 通訳

国際大会の競技において選手やエキスパートを円滑なコミュニケーション等で

サポートができるよう、調達に工夫を凝らし、次の要件を満たす通訳の選定を促進する。

ア 能力について

- ・日本語、英語の両言語に精通するとともに、国際大会の運営を十分理解し、国際大会で用いられる用語を適切に通訳し、及び翻訳できる語学力
- ・選手及びエキスパート等競技関係者との円滑な意思疎通ができるコミュニケーション能力
- ・国際大会の競技における適応力

イ 意欲について

- ・自主的に競技職種の専門知識を涵養できる積極性

(3) 指導員

エキスパートとの十分な連携ができるよう留意しつつ、次の要件を満たす指導員の選定を促進する。

ア 能力について

- ・国際大会に対応した十分な技能レベル及び指導力
- ・収集した情報を分析できる情報分析力

イ 意欲について

- ・選手の指導や情報分析への積極性

なお、海外エキスパートの招聘、継続的な研修の実施、海外での実地調査・研究等により、人材の確保・能力向上に資する取組の実施を促進する。

5 国際大会や各種技能競技大会等への認知度の向上及び協力の裾野拡大

国際大会や各種技能競技大会等への参加等を通じた国民の技能機運の醸成を図るためには、まずは、これらの大会の認知度の向上を図ることが必要である。また、国際大会への参加、各種技能競技大会を持続的に開催するためには、競技の運営や機材の調達等に関して企業・学校等からの協力を得るとともに、国際大会や各種技能競技大会に関わる関係者の裾野拡大を図ることが重要であることから、以下の取組を促進する。

(1) 国際大会や各種技能競技大会等への認知度の向上

国際大会や各種技能競技大会等に関する国民の認知度の向上のため、企業、学校、団体等の協力を得つつ、各種広報の充実を図る。

(2) 国際大会や各種技能競技大会等への協力の裾野拡大

国から企業、学校、団体等に対し、職種別分科会への参加、選考会への参加勧奨、合同訓練等の実施、機材の提供等についての協力要請を積極的に行う。また、協力が得られた企業等に対しては、感謝状を贈る等の対応を行う。

(3) 若手技能人材の裾野拡大

技能競技大会参加者の裾野拡大に資する取組として、各種の技能振興事業の更な

る活用を促進する取組に加え、各職種における技能の重要性、職業の魅力、キャリアの可能性等を国民各層（小学校、中学校、高等学校、各種学校、専門学校、高等専門学校等の生徒、学生、教員等を含む。）に積極的に発信し、技能競技大会への参加の一層の促進を図る。

- (4) 国際大会や各種技能競技大会等関係者の社会的評価及び地位の向上
国際大会で優秀な成績を収めた選手、エキスパート、協力企業等を表彰する等、国際大会や各種技能競技大会等関係者の社会的評価及び地位の向上に努める。

技能五輪国際大会における大会テーマについて

○日本・静岡大会(2007年)

- ・個性輝く技能の祭典—見せよう、伝えよう、技能で輝く個と社会
- ・ Thanks for the Skills

○ロシア・カザン大会(2019年)

- ・ あなたの技術の未来
- ・ The Future in your skills

○中国・上海大会(2021年) →中止(15か国分散開催で実施<2022年>)

- ・ 新しい若者、新しい技術、新しい夢
- ・ New Youth, New Skills, New Dream

○フランス・リヨン大会(2024年)

- ・ 技能のある所に(未来への)道がある
- ・ Where there is a skill, there is a way